



今月の主な目次

- サイレージ用トウモロコシの品種選定ポイントと安定多収栽培の留意点について
- 今年度の飼料作物種子動向 種苗部
- 北海道統括支店 道央地域より新年のご挨拶
- 北海道統括支店 道東地域より新年のご挨拶
- サイレージ用トウモロコシ品種のご紹介

謹 賀 新 年

平成23年の新春を迎え、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より弊社事業につきまして、特段のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、春先の低温から一転して記録的な猛暑となり、農畜産物の生産に多大な影響を与えとともに、近年進みつつある地球規模での気候変動を強く実感させる一年となりました。また、4月に宮崎県で発生した口蹄疫はわが国の酪農・畜産業界に大きな被害をもたらし、今なお大きな爪あとを残しておりますが、あらためて被害に遭われました生産者・関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、防疫対策や今後の復興へ向けたご尽力ご苦勞に深く敬意を表します。

さて、経済・社会のグローバル化が一層進んでいく中、わが国経済は世界経済の動向と密接不可分なものとなってきていますが、わが国の農業を取巻く環境も、生産物価格の低迷や後継者育成の遅れなどから国内生産力・供給力の脆弱化が指摘される一方で、BRICsをはじめとする新興国の経済成長と世界的な気候変動を背景とした中期的な穀物需給の逼迫や生産コストの上昇が避けられない状況にあり、地球温暖化や生物多様性も含めた環境保全への動きなどとも併せ、グローバル化する世界の中で一層厳しさを増してきています。また、昨年秋以降に俄かに議論が始まった環太平洋連携協定(TPP)への対応は、日本の農業の将来を左右する重要な問題であり、わが国農業はかつてない厳しい状況に直面しています。

このような中、農業が本来持っている農産物の生産・供給機能、そして環境保全に係る機能をしっかりと発揮し、安定した食糧生産基盤の確保や地球環境の保全も含めた持続型社会の実現へ向けた役割を果たしていくことが、農業、酪農・畜産業に課せられた使命



であると考えております。

弊社は創業者である黒澤西蔵翁が提唱した「健土健民」を企業理念に、牧草・飼料作物種子や乳牛用・肉牛用の配合飼料製品、サイレージ用添加剤などの酪農畜産分野を中心に、緑肥作物や野菜種子、また芝草種子・緑化技術などの環境緑化分野まで幅広い分野で事業を展開してまいりましたが、今こそ長年に亘って培ってきた技術やノウハウを活かし、牧草・飼料作物など自給飼料を活用した生産基盤強化への貢献とともに、緑肥作物を活かした環境保全型農業の推進や自然・生態系に配慮した緑化用草種・技術の開発などを通して、日本の農業、酪農・畜産業の発展、持続型社会の構築へ向けた役割を果たしていきたいと考えております。

本年も農業、酪農・畜産の生産現場から幅広い生活分野に至り、数多くの商品と技術を取り揃え、皆様のご用命をお待ち致しております。

新年を迎えるにあたり、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

平成23年 元日

雪印種苗株式会社

代表取締役社長 掛村 博之